

醫西新家傳

Kitasato Memorial Medical Library

F
1-62

499.7 I+ 165083

妙藥後集

醫術家傳

富士川文庫
3369

書林

浪花萬屋
松壽堂
藏

醫術家傳集

或人予ふら〜〜〜
陽此醫才士大夫若乃命〜
て救民妙藥集と編集
を疾治適中〜
駿込淨志〜
ハ〜
ハ〜
ハ〜
ハ〜
ハ〜

一 科やとて此の學方數劑
 以て考て以て梓小鑊以て發
 百中此方にりて一と其の
 と得どとて此事を今
 編て來して醫術家傳集
 と名くわんて病に効を
 け方公明の之所より以て救
 庶幾ハ仁の一事をせんを
 の

寶永元年 申 甲子孟冬日

讚陽高松府醫士

香川姓元貞景康撰

目錄

表裏こちの二二有之合
そのうらむりてあり

中風 一

産後血暈

産後血不止 二

産後腹痛 二

産後玉門子宮出 二

産後小便不通 二

産後腰氣不下 二

産前産後氣付 二

死胎 三

傷産血下不止 三

胎内子動血下 四

産者俄腹痛 四 産者俄胸痛

産者小便血下 五

難者小便多通不止 五

產後玉門不塞 五

產後玉門出不入 五

婦人乳腫物 六 婦人乳爛痛

玉門中瘡出痛 六

玉門うゆこ七 玉門腫痛 七

用水通時腹強痛 七

產後血塊 七 產後腫氣 七

切疝血止 八 衄血 八

疝洗菜 土 疝筋續 十二

鼻中臭汁出 土 鼻中生肉出

鼻こらぬ 土 鼻痛 十三

齩鼻菜 十三 鼻下赤爛 十四

鼻瘡 十四 鼻茸菜 十四

舌腫物出痛 十五 木舌菜 十五

傷寒後舌出不入 十六

舌ととと菜 十五 産時舌出不入

舌血流出 十六 舌とびと痛

小兒舌痛腫とくむ 十六

齒莖腫痛 十六 同齒動 十七

小兒齒遲 十七 牙齒痛 十七

眼の不菜 十八 うこいの灸

星眼菜 十八 上気目

つこ目 十九 目俄赤腫 十九

目志ふつと痛 目志 二

疱瘡目入 目入 二

酉目菜 酉目

俄耳不聞 俄耳 二

耳鳴 耳鳴 二

虫耳中入 虫耳 二

耳中蟻入 耳中

聾耳 聾耳 二

耳中腫物痛 耳中

田虫 田虫 二

苦虫 苦虫 二

癩鼠 癩鼠 二

躰氣 躰氣 二

撲傷 撲傷 二

湯火傷 湯火 二

矢根其外鉄立 矢根 二

首接菜 首接 二

筋こた 筋こた 二

骨接 骨接 二

咽骨立 咽骨 二

簽刺菜 簽刺 二

ハ不の菜 ハ不 二

癭瘤 癭瘤 二

目ハ不 目ハ 二

日種 日種 二

疥腫 疥腫 二

いさうそ いさう 二

瘡疹 瘡疹 二

瘡菜 瘡菜 二

小兒瘡爛 小兒 二

錢瘡痒如癩 錢瘡

小兒眉瘡 小兒

驚馬鼠 驚馬

小兒臍爛 小兒

小兒衿つみ瘡 小兒

疱瘡 疱瘡 二

小瘡水瘡 小瘡 二

頭瘡 頭瘡 二

くしとの菜 くし

白禿瘡 白禿 二

元乃菜 元乃

小兒五疳 小兒

諸疳 諸疳

諸虫菜 諸虫 二

大虫菜 大虫

麻病 麻病 二

小便閉

大便閉

便數遺尿

便毒

疝氣

下風

疔白

囊爛

陰痿

脫肛

痔瘡

冗痔

下血

遺精

吐血

脚氣

腰痛

瘡疾

毒虫

灸風

魚毒消

魚毒消

鼠喰

漆毒

黃疽

水腫

癩癩

疫疠

胸虫

長血

喘息

痢疾

五膈

飢逆

積聚

中暑

右病症 百四十五

治方 四百方

醫術家傳集目錄 畢

醫術家傳集

中風

諸中風ニ吉

菜根

おのり下よある成れて
よくあつてさすす小
切一尺又寸まらるる糸は
くく七祀

漆木根

右に菜根と白くくこ

右十四把に菜の水又糸入きこ

糸よせんと二番の水こ糸入

一本又合よせんと一番と合で

昼夜さく月あるある

産後血暈ニ吉

干鮭一尺 青ジト

三ツ喃と丸ととと

右ニ味黒焼よして湯にて用

下す小湯と湯とまどへて用

又方 産取産後たよ

白芷 蒲黄 俚一考

天花粉 俗云くくまのり

寒晒餅米 三兩

右粉よして湯よてり

産後血不止ニ吉

地黄 阿膠 等分

右ニ足七分せん

同後腹疼ニ吉

揚梅皮 俗云たまら茶

右粉よして味噌汁を

産後玉門子宮出ニ吉

蛸貝乃汁を洗て入

又方 大麦乃粉を付

腰湯さくち

産後小便不通ニ吉

ちまのふ 同よりて

かんざり 五分

右二爻水天目よ二盃入二盃
よせんじ二番よ二盃入二盃
ふせんじのちひくし

同腰気吉

梅子 俗云 蘇木 俗云

右二爻粉よりて縮又包玉中へ

さへ入かり糸とすさく引

出でのこひてしつかなり

同産敢産後気付吉

芥葉 俗云よとせれ

藜草 俗云よとせれ

大尾草

薊草

右四色五月五日よらあ

げ馬の小使よ五日侵とらあ

日みり 黒焼みでりちあ

かろ古血下さるふハ午漆く

ろやれとかるらり

死胎吉 死胎ハ子こら中ま

好酒よ黒豆とせし

用くす

又方 雞卵印とが 控塩

少くく

又方 雞のこいせ血といふ

入あしつうそこのちうは

又方 午漆とせんで用く

し

又方 あげ馬の小便と用

きし 赤腫やうじと用く

傷産血下不止吉

維の羽とちうやれし

ほおてのちうし

又方 生姜 日炙りてせん

又方 阿膠の粉とほおて用く

又方 蒲黄のちとちうげん

し 粉のちとほおて用く

妊者胎内子動下血吉

葱白 俗云神ちのちうし

右せんし 用く

又方 芥葉ほよし

し

又方 生のうす竹のあま皮を粉

めてほよて用く

妊者腹痛 吉

銅を焼てほよ入てそのゆと

用くし 又葱白とせん

し 右のほとあまをく

のちうし

姓者俄胸疼 吉

くろ竹の皮をこきぎてせん

トのちゆー

又方 維の印は子 好酒よ

くろ豆はせんト用ゆー

又方 黒豆はせんト用ゆー

又方 阿膠 桂心 等分

右はゆーくろゆー

又方 麻の角と煖粉ゆー

はゆーくろゆー

又方 りんごはせんト用ゆー

姓者小便血下 吉

竜骨は粉はト用ゆー

日よこなづくのちゆー

姓者小便多通不止 吉

葵實 一握は木の皮

右等分せんト用ゆー

又赤心豆をみく食ては

玉門不閉 吉

石胆炒せ青葉を一つは

水までぶらとせんト用

灰の妙よりその水れ中

へかりくみせく右のち

葉はゆーくろゆー

洗方

又方 ひとひらみみえし洗

し

王門出不入 吉

龜甲申はちりぬれし

用して

又方 蕪木 俗云とよみの

鳥賊甲 忍冬 俗云

お三又等分して粉めて

すりくついで

乳腫物 吉 黄柏の根生

てすりとりて酢とけ

又方 弓の弦少く乳とめて

ちをにらうよ朱小て

白米魚腸如律令と

い文字の公書て

乳爛疼 吉 桂心末とほ

よそとこぬる

又方 めろしと一末と

て口ん洗て

又方 鼠 俗云と 亂髪 ちりの

ちりやこ 松脂 等分

右に又粉めて研ぶて

洗けて

玉門中瘡出疹ニ吉

桃の葉とつとつとさかりけよ

黄柏乃粉とひいて栗乃

大さく丸として玉門へ入て

登夜まなつてぬるを

又方 大の尻草乃根とせん

洗てよし 石餅と蒸して

玉門痒ニ吉 地骨皮とせん

ト洗ふべし

玉門腫痛ニ吉 當飯三分

大黃二分 甘草一分

右粉よして縮よつと中へ入

て

又方 桃仁 おはら中の

右炒て粉よして骨く

膨水時腹痛ニ吉

芍薬とせん下のちあ

又方 批把葉とせん下のちあ

産後血塊ニ吉

當飯とせん下のちあ

又方 黑豆とせん下のちあ

産後腫気ニ吉

黑豆とせん下のちあ

ふるふなりちあ

又方 雞毛とろろやきりて

ほそりちあげ

又方 桑木とせんぐさく

浸す

又方 番薯とせんぐさく

し

産後小便不止ニ吉

雞羽 三ト 芍薬 三分

右粉すしてほそりちあげ

産後玉門開不閉ニ吉

石灰と赤色は炒て水入

きり合せり

とりて玉中へ入る

又方 硫黄と粉すして入る

逆子又不産ニ吉

蓬とほそりちあげ

又方 子は是のうらふつらりては

又方 子は手は雞の血はぬり

て

又方 子は是のうらふ千里とふ

文字は書てし

切疰血止ニ吉

松花緑乃春ニすむらり

とり ちりちり

騏驎血

あけける乃ちなり也
りよて粉にして一匁

右に色粉少して斑へひ移り

るるなりとまゝくはひ移り

ひ移りくるるなり

又方

石灰

小き釜に二十口水
てきよめ白く二度

水浴するなり

にら

くはひ移りあはゆる

なり

右にふつこ竈にうへよこ

十日つらあさいおあくくはひ

なり

又方

紫貝

蒲黄

ホ分

右粉少てい移りくるるなり

又方

黒楠

乃ち舌を焼く

いとろり舌のくへよかく

妙なり

又方

百草

五匁 川骨

ニ匁 赤角豆

一匁 新灰

赤小豆 一匁 右灰内へ入る

あげるる糞はよてと記

澤はひより真白くを用

くはひ移り心むく天南

星 少くはひ移り

ゆるなり手負眠たるは

蛭乃ち下るる少くはひ

又方 燕つばき乃くろくろた米こめうく
用もちたちまもちちちもちちちもちちちもちちちもち妙まうく
又方 疝はしん疾しやく治ぢとひひせせ茶ちや之し
よよととここはは茶ちや六ろく月げつ去き用もちのの中ちゆう
ははちちららほほ干かんめめくくちちららめめたた
粉こなめめてて糊こうををててゆゆのののの
てて疝はしん不ふたたららののああららとと密みつ
してして疝はしんよりより四分ぶつぶんををののけけ
くくららととせせくくななりりととふふ
ハハ次つぎ糸いとははほほくくくくくくしてしてけけ
かかりりととふふ一いち日にちはは六ろく糊こうをを
くくららととせせくくななりり

又方 松茸しょうたけ ううくくくく切きららせせ

右米こめ泔まいふふ一いち夜やつけつけととららおお刊かん
てて粉こなめめててけけいいくく

又方 喘ぜん太た馬ば ああらら喘ぜん足そく翳がいとと去き
併ひとひひくくげげいいととららひひくくくくくくくくくくくくくく
乃の日にちへへ入いららせせととららひひくくくくくくくくくくくく
めめくく胡こ麻まををととららすす 廉れん胎たい子し

ちちののくくくくくくののひひ ああららううごご

又またのの糸いとひひくくくくくくくくくくくく各各自四四文文

右右月げつ二に味みととううくくくくくくののううくくくく乃の
圓まるへへ入いららせせととららひひくくくくくくくくくくくく
てて粉こなめめててけけいいくく

又方 騏驎きりん血けつ ああららううごごのの血ちゆうけつ

蒲黄ハハク 炒下シヤカ 葛粉カクボ の下カ 下カ

宋ソウ 二五 四十草 一分

右粉コよりして葛カクは糊カと丸カ

大粉ダイコ湯カよりして丸カよりなる

衄血ノウケツ 茜根センコン 俗ソコ云クニあるは

右ミでんカのカより丸カ

又方 黑豆クワシヤウ 茜根センコン 木キ分カ

耳草ミミソウ 一カ

右粉コよりして丸カのカより丸カ

又方 茜根センコン 烏梅ウダイ 木キ分カ

艾葉アイヤク

右三味粉ミカクよりして丸カのカより丸カ

又方 百草ハクソウ 木キ分カ

右水ミヅよりして丸カのカより丸カ

右水ミヅよりして丸カのカより丸カ

入イし

又方 鱗炭水リンタンスイよりして丸カのカより丸カ

右水ミヅよりして丸カのカより丸カ

又方 額カクは膠カウと丸カより丸カ

又方 白木ハクキ丸カ粉コと鼻ハナのカより丸カ

又方 咳カエのカより丸カ

又方 芍薬シャクヤクは白ハクのカより丸カ

トのカより丸カ

切キ洗セン葉エフ 荷葉カハ 木キ分カ

忍冬ニシキ 青木葉アヲキ 芥カイ

黄柏ワウハク 藤トウ 藤トウ 藤トウ

右等ミナ分ル分ル七シ流リウえんエンはハ等トウり

又マタ方カタ古コ身ミれレ刀タウえエ切キるル木キハ

くクつツりリ物モノをヲりリそノ付ツけケ

こコごゴのノ者モノ小コ塩シホ入イれレるルくクりリ

あアまマよヨしシ又マタいイ葉エフとトまマるル

あアまマれレゆユとトとト記キるル乃ノ紙シ

あアくクとトとト紙シのノうウへヘまマるル

そソのノうウへヘかカりリ乃ノ紙シをヲもモとト

疝シヤク筋シム續ツク 沢タク蟹クサはハ足タらラ中チウ

乃ノ肉ニク以ヨりリ粉コをヲてテ紙シ乃ノ紙シへヘ
つツりリなりナリ

鼻ハナ中チウ臭クサ汁シユ出デ吉キチ

百ヒャク草ソウ乃ノらラろロちチれレとト湯ユ米メをヲ

一イツ又マタつツのノ紙シへヘ鼻ハナ中チウ乃ノ

虫ムシ湯ユ乃ノなりナリ

又マタ方カタ白ハク芷シ 黄ワウ丹タン 硫リウ黄ワウ

右ミナ粉コをヲてテ鼻ハナ乃ノ紙シへヘかカりリ入イ

鼻ハナ内ナイ生シユ肉ニク出デ吉キチ

火カ麻マ子シ 棗ソウ 水スイ分ブン

右ミナ粉コをヲてテ丸マへヘ鼻ハナ内ナイへヘかカりリ

入る一三二日してあがり
又方 雄黄と一くまの鼻
中へ入おけを肉をたじりなり
鼻此さるわすし

石菖根 皂莢 ホ分

右粉めてせり入るし
鼻痛 言 いまら粉粉
てぬるる

鱧鼻 言 半夏 硫黄

白塩 枯礬

右木多粉めて水とせり
わらへ

又方 芥子とこれ粉めて
あがり粉ふして飲ん

又方 枇杷葉 山茄子

右粉してぬるるのび

又方 橘核 杏仁

右代橘核小胡桃乃實一つ

まのりまぜ酒とせり

又方 百草末とろり

湯少く用魚へ炒り

又方 蜂房とろく炒り粉めて

さけりてのち魚へ

又方 あさぎとこれ美粉す

玉子此をろこふ移りて粉
寝てまよゆりてよく

あしおととをり

又方 輕粉けいこん 杏仁あんじん

杏仁あんじん かんどのこよはれ中なる

右之色紙を分けて粉おこ

水へそとれりて

鼻下赤爛びげあせ 吉

大黃だいおう 杏仁あんじん

右粉おいて水へそとれりて

又方 枯礬こらん

巴豆はづ けりおむりてまてまき

右等分粉おいて水へそとれ

鼻瘡びそう 吉

杏仁あんじん あんどれをみち申せの

右粉おいて乳をゆくととれ

えくゆて

又方 良姜りやうきやう 一味粉

て

又方 干姜かんきやう

右粉おいて水へそとれ

鼻茸びしやう 吉 硫黄りゅうわう 没薬ぼつやく

乳香にゅうかう 各二分 巴豆はづ 一粒

右粉おいて鼻乃内へひ移り

又後さのり

舌腫物出疼ニ吉

赤豆 沉香 辰砂

各五分 活礬 右砕りてその紅めてとら

つけくす

木舌ニ吉 煎乃をくむるなり

取煎一味くせん一用べ

又方 芍薬 甘草

右木分たしてせん一用せば

又方 半夏一味せん一用ひ

煎をくす

傷寒後舌出不入ニ吉

巴豆一味依り所くこ鼻乃

穴へ入おひんわそくなり入

なり

又方 龍腦と舌へぬらう

なり

舌とれニ吉 辰砂 葛粉

右木分をのり紅めてくくす杯

とあるなりうふつけてす

産時舌出不入ニ吉

朱砂乃粉石灰水ととさ

朱砂乃粉石灰水ととさ

舌乃うへふわりてす

舌血流出ニ吉

生芩 阿膠

右粉めて湯にて用す

又方 生芩れけと童便とホ

分あをせて冷湯にて用

煎ゆをり

又方 蒲黄 青黛 五分

青黛 五分

右粉めて湯にて用す

又水にて用す

とす

舌痺疼ニ吉 又ハ中風乃舌

荊芥 雄黄 五分

右粉めて湯にて用す

小児れ舌疼腫とくむいハ破と

節とられをせやくまをては

齒斷腫疼ニ吉 又ハ中乃は

塩麩ひくろをれして用

齒齟腫痛動ニ吉

皂角 一两 白塩 半兩

右くろをれして用す

虫齒痛ニ吉

山椒 巴豆 半分

右粉すりて糊かりて丸まくす 穴あなへ入いる

又方 蟾か乃の糞ふん粉こなりて丸まくす

く丸まくす 穴あなへ入いる

小兒齒遲せうじしちニ吉

川芎せんきゆう 山茱さんしゆ 當歸とうき

芍藥せきやく 車前せんぜん 半分

右粉すりて一日いちにち水みづで丸まくす

又方 山茱さんしゆ乃の粉こなりて丸まくす

又方 山茱さんしゆ乃の粉こなりて丸まくす

丸まくす

齒牙疼しつがニ吉

乾姜けんきやう 一两 雄黃ゆうわう 二分

右粉すりて丸まくす

虫齒むししニ吉

唐たうゴごままととくく後ごふふ

ままぐぐ心しん毒どくふふ丸まくす

又方

烏賊くわいせき乃の甲か乃の内うち多た分ぶん

干かんてて粉こなりて丸まくす

とと丸まくす方かた耳みみの中なか

へ入いるまめめををり

眼めイボいぼニ吉

龍蘇乃のそくをけまく
さくはふたききめく

同ウハヒノ灸

肩偶一寸と外とま
よくおてえねをさうま
小骨ありま申はぶこ
女仕ほど多とて小兒
ふん之火れとて

星眼 吉

若荷根のそくま
やうある物ありと
そくまありと

りしをけけり

竜腦 ハマヤをと

づくまの秘りあり

さくま

上気目 吉

明礬 五分 辰砂 水色一分

おんめうをんと粉ありて蘇の
中びりのものをさうまをんと
入れ三十日おつて
みかり右にさうまを粉ありて
まんと合てありと冷め
てとれはくあり

又方 活礬石^{くわくらんせき} 乃^{なり}をさ

石菖根^{せきしょうこん} 黄柏^{おうぱく} 冬^{ふゆ}ホ

右布^{はの}下^{した}を^をり^りあ^あて^てふ^ふく^くは^はを^をす

つ^つこ^こ目^めを^をき^きつ^つこ^こむ^むす

水^{みづ}を^をれ^れ根^{こん}を^をく^くあ^ある^る

く^くろ^ろや^やま^ます^す入^い乳^{ちゅう}汁^{じゅう}を^を

ゆ^ゆめ^めく^くと^とや^やれ^れ目^めを^をら^らく

入^いて^てよ^よし^し煮^によ^よつ^つこ^こむ^む時^{とき}

い^いそ^その^のま^まを^をら^らつ^つて^て

乳^{ちゅう}を^をそ^そこ^こを^をら^らす^す

又方 地膚子^{ちふし} を^をさ^さす

右^{みぎ}を^をら^らり^りあ^あて^てそ^その^のけ^けを^をあ

ら^らも^もう^うし^し一^{ひと}滴^{たつ}を^をい^い

け^け目^めを^をき^きす

眼^{がん}俄^{がた}赤^{せき}腫^{しゅ} 吉

生^{なま}姜^{しょう}乃^{なり}を^をら^らり^りあ^あて^てせ^せ

し^し月^{げつ}を^をら^らり^りあ^あて^て

同^{どう}洪^{こう}疼^{しょう} 吉

菜^{さい}花^かの^の葉^{えつ}を^をら^らり^りあ^あ

し^して^て粉^{こな}を^をら^らり^りあ^あ

少^{せう}と^とす^すて^てそ^その^の煙^{えん}を^をら^ら

乃^{なり}を^をら^らり^りあ^あ

又方 明礬石^{めいらんせき}乃^{なり}を^をら^らり^りあ^あて^て冷水^{れいすい}

たぐりあひて

痘疹目入吉

白芥子しらかひをり足あしをり

よわりて

酉目吉 地膚子ちふし

多おほくせんトほえて

眼腫痛吉 芥葉かいはつをり

黄連わうれん 小分

右みぎせん ほうご

俄耳不聞吉

香附子かうぶし 俗云やうとよ
をり補おぎなはる

右みぎ粉こなをりて 菘すう 菴あう子しとせん

トそのをりて

りちる

又方 雉けい乃の印いん以い蠟ろう子しをりて

食くとへ

又方 黒くろ雞けい乃の糞ふんと黒くろ豆まめを

入いれ炒あぶてほほひひてそのけ

とのをりて汗あせおおく耳みみああく

かろ

耳鳴吉

雉けい乃の印いん以いほほへての

又方 吳ご茱しゆ臾ゆ大だい黄わう烏う頭とう

右みぎ粉こなをりて是こゝ乃のをり

つけてす

虫耳中入吉

半夏以粉砕して二斗に

油をそらした耳の中へ入

す

又方 蕪代葉乃ちぎらりるを

一つゆへてす

又方 蓮葉乃ちぎらりるを

一ちぎくへてす

耳中蟻入吉

燈心油をつけ耳の中

へ入る物出です

又方 杏仁 あんごのこまひら

右織は麻に油をそらりその油を

耳の中へ入てす

停耳吉 俗云いざれば

靑黛 黄柏 广香

右せんしやくをいざす

又方 桃仁 たうごん

右ららやれやて粉砕してす

こてす

又方 杏仁とららやを

粉砕してす

又方 明礬 黄丹

右等分中てくくえん一一
又方 五倍子 俗云くがらるる
右粉中へもろり
入り

又方 搗栗とこますま粉を
又方してこますま粉を入る

耳中腫物出痛吉

蟬乃わけり粉を入る

又方 大根のちり入る

又方 沽礬二分
辰砂一分 沉香一分半

又方 天南星生 南蜀葉

右お分給中へ山梔子を入る

田虫吉 檜木粉を入る

又方 蓮肉を入る

又方 蓮肉を入る

又方 和大黄 明礬
硫黄 各五分

右粉中て研してとれり

又方 吉野葛 大白砂糖

各五分 唐大黄 十文

右粉中て和大黄のちり

けしよの粉に二分一分して

田虫の麻布してとれり

あくと右の薬とれり

苦虫 吉 人参 五分

伽羅 一文 忍冬

右布少つて七日此中一日ふ

ことろを蒸して一日ふと

つあごらるなり

又方 紫竹耳皮 苦桃木

苦辛 三文 豆んげん耳皮

六文 あごらるごニ文

右調合して豆んげんゆげ乃

うふふふふふふ

白癩風 吉 各五分

大黄 二分 硫黄 五文

右粉中てとれり

又方 蕪荻子一味粉中て

好酒をそとれあまづ瓜
布をとりあててひ
くくと潔くたけを削

又方 附子 硫黄 小分

右粉をして姜汁をそとれ煎
乃るこくとりけり

又方 枳椇 時多くとつふり

右粉をして酒をそとれけり

又方 貝母 南星 小分

右粉をして生薑汁をそとれ
ぬる

又方 知母 此粉は研をり

又方 丹礬 牡蛎 小分

右粉をして研をり

又方 杏仁 乃粉は研をり

とれぬる

躰気 俗云とこたまり

田辛 螺乃かまをあげ

て丹礬を粉にして研をり

入してけり

くけり

又方 木香 唐土 小分

右末分粉をして酒をそとれ

まのけり

又方 明礬 輕粉 俗云...

各一匙 葛粉 二匙 辰砂 二分

右粉中て研してとれぬる

又方 香白芷 活礬 乃...

黃丹 各五分 山椒 二分五厘

右粉中て研してとれぬる

撲傷 俗云...

山梔子 鹽麩粉 各一匙

右粉中て研してとれぬる

又方 楊梅皮 俗云...

右粉中て研してとれぬる

行て...

又方 古所 小麦藁

真菰 各一兩 大黃

各一兩 合觀 俗云...

米通 一兩

右粉中て研してとれぬる

又方 川芎 一兩 廉角 二分

胡椒 半兩 天南星 同

大黃 一兩内半兩

右粉中て研してとれぬる

右粉中て研してとれぬる

又方

生鮮 乃...

粉と移りて行て
のひらけ多るものを

又方 合觀 補じ乃本れり
八分

大山椒根 二二分

干鮭頭 くろり 韭實 二二分

右粉所て好湯にて研をよ

りてすし打やあを多る

とふ粉小行りよ右此は味乃

難小 輕粉 二分 燒塩 二分 之

て水よくとらぬうよくく

多れ粉少くも試さてりぞ

引り淡炮よあち多る

痛痺小けふあて妙なり

又方 補じの本 黒糖

わろそ本 くろり

右粉所て等分古る少く

のまるとべー

湯火傷 俗云やけどり

黃栢 二二分 ハ生す分ハくろり

白粉 かーいれり

右粉所て水よく入ふ

まを細乃やうあてして

少の葉乃くもくもぞもふ

てあしけんかり

矢の根其外鉄乃立らる菜

おもたはれ根とよくあり

ほくそあつとさつく丹一

夜ふゆるるなり

又方 小らと食せて根より

すれ竹あがり毛枝

あくぬこあがり

首接菜

杉脂

いふとくさく
と用入り

右此菜小こま乃仲大くまぐ

了小一むい入火かけて移り

水へうつとくさくさ時ハま

ゆとがく

筋とくこれ菜

葱白ふ白砂糖とく

くさくさり合せけく

骨接の菜

大鯰以丸くくく

みで天南星小麦取

草等分粉みで右乃

鯰少で移りけく

切たくバ去毫以くろや

まみりてお分らく

くさくさく

骨接の菜

筆乃家の内へもてをせ
ころろと焼けて冷めて
あてのちをへ

又方 里魚乃うろこを多
しめて冷水をて用へ

又方 猪れ目玉忌を多
て粉めて竹乃筒を

同く吹入てす
簽刺乃菜 寒葉石一味

粉めて細申しを
秘つてす

つらつら

いぶれ菜 山梔子

トて粉めて湯を

又方 二曲り

又方 庚申れ目乃細

ねをこぼす

又方 續隨子乃汁とさ

くわらてす

又方 南星れ粉

とさ

癭瘤 俗云こがいが

海藻はひ

海蛤壳のどし海
中乃若乃たぐひと食

しんくす

又方 貝母 連翹 紫菀

右せんしゆのちゆへー

又方 小麦と砂ふひし

粉ありて海藻と等分

ありてゆふてさくくと

ちゆへー

又方 灸灸ふ乃うふ二つ

こつとてて芥葉と葉

乃灰とゆわくよはせて

さくわつてす

目いづれ菜 地膚子

明礬 等分 せんしゆ若

目種れ菜

不瓜 鼠尾

菜 枝葉

右いづれとつて等分

て糊麻乃ゆきて腫口

はあけてなへす

又方 不けの本 やくし

石見皮

やくし

右どきも紫分を焼く
て細くおしあををこく
乃志度り汁よそのへてけ
す

又方 さ、まじれ葉 野葛の
土器 粉

右お合かして細く移り
アヤク

又方 いちまろ氏根以柳
まてより葉一やんど
目 酒とあてめてりち
るく大さ二夜りちひ

てより痛やまどバニ
夜りちひ

又方 飄 黄栢 小瓶

右浴かしてまじれ乃他
くそら分をかり

疥腫ニ吉 不けれ茶 二分

ヤク茶

石見皮 五分

五八草 二分

右河豚を厚くかして粉
て細くこく乃汁よそのへ
茶を移り紙おけり

又方 櫻木皮 但古木吉

右粉すりして葱いり白乃根もと松まつ

了しうしと細こみみくく茶ち松まつ粉こなり

灸灸乃蓋かきののとく紙かみと切きり中ちゆうを

とらとらーーあけてあけて茶ち松まつ粉こなりりと

又方 糸瓜へちま子こををととああーーと

湯ゆおおくくりりちちららおおぐぐーーかかぎぎおお

ここののここををああららわわすす

又方 蒼耳子そうじ根ね松まつ粉こな

くくぞぞれれ汁じゆうとと二に三さん歳さい乃の男おとこ子こ

乃の使つかふふ移うつりり合あわわすすののせせびび

又方 葱いり白しろ此こををちちりりけけ紙かみ

ほほふふ子こをを合あわわすすののせせびび

又方 蒼耳子そうじ根ね葉は茶ち

少すく量りやうとと粉こなりりてて研けんぶぶと

ちちりりけけ紙かみ

ひひややううのの茶ち

蚯いん蚓ぎん乃の糸いと後ごとと切きり腹はら中ちゆう

此こををとと押おささすすととくく粉こなりり

ととくくおおーー合あわわすすののせせびび

はは粉こなりりてて茶ち松まつ粉こな

ててかか合あわわすすののせせびび

蒼そう耳じ乃の茶ち

蒼耳子（花實葉） 二色（赤白） 亦（分） 粉（小）

一（く） 黑豆（汁） 一（く）

一（く） 一（く） 一（く） 一（く）

一（く） 一（く）

又方 苦參（根） 粉（小） 一（く） 皂

角（と） 一（く） 一（く） 一（く）

一（く） 一（く） 一（く）

又方 鯉（乃） 一（く） 一（く） 一（く）

一（く） 一（く） 一（く） 一（く）

又方 牛麻（乃） 一（く） 一（く） 一（く）

一（く） 一（く） 一（く） 一（く）

瘡菜 葱白根 生姜

右（亦） 分（を） 一（く） 一（く） 一（く） 一（く）

一（く） 一（く） 一（く） 一（く） 一（く）

一（く） 一（く） 一（く）

牛膝（俗云） 一（く） 一（く）

右（粉） 一（く） 一（く） 一（く） 一（く）

小兒（瘡） 一（く） 一（く） 一（く）

牛糞（一） 一（く） 一（く） 一（く）

錢（瘡） 一（く） 一（く） 一（く） 一（く）

柳（一） 一（く） 一（く） 一（く） 一（く）

一（く） 一（く） 一（く） 一（く） 一（く）

小兒眉瘡小兒眉瘡此菜

小麦乃粉小麦乃粉以以之之粉粉小
してしてほほくくととここわわぐぐ

小兒驚馬風小兒驚馬風

燕燕此此巢巢乃乃中中のの屎屎とと温温

湯湯少少くくたたくくわわひひままれ

ひひ永永くく深深くく乃乃長長生生

乃乃聖聖法法ををり

小兒疳小兒疳たたららししふ

當當敗敗此此粉粉ととははててぬぬく

小兒疳小兒疳とと瘡瘡此此菜

地地脱脱粉粉ををててららるるををりり

痘瘡痘瘡吉

芭蕉芭蕉此此葉葉生生ととええここここみ

アアンドンドののちちああへへ一一ああくくは

又方 沉香

紅花 俗云俗云愈愈に

各各一一分分 金箔 二枚 莪朮 二分

赤牛屎 五月五月三三月月四四月月ととああるるををり

蓬蓬菖蒲菖蒲大大麦麦ここの

二二色色瓜瓜糸糸牛牛ににくくををててそのその屎屎を

ととりりてて又又月月又又日日乃乃夜夜ううららししりりゆゆふふ

痘瘡痘瘡色色ををああけけけけららふふに

紅花紅花とと瘡瘡鉄鉄基基よよののハ
金箔金箔とと瘡瘡虫虫氣氣子子ハ

芥木カイキと湯ユかきぬるゝ
牛屎ウシノコとよじ細コくわ

只ただの沉香シヤウキヤウとよじ

右ミナは茶チヤを紅ベニ乃ノ縮シユクつゝと

知チ一ヒトのちゆ一ヒト帖テウと二ニ日ニとこ

日ヒトも用ヨウその後ノチせんと用ヨウ

諸モロ小コ瘡サウ水スイ瘡サウニ吉ニキチ

雷ライ丸ワ油ユニ三ニ文ニ 章シヤウ腦ノウニ一ニ文ニ

白ハク粉コニ一ニ文ニ 白ハク粉コニ一ニ文ニ

右ミナ茶チヤとん少シヤウくくククとら合カヘ

て分ワケりなナり

又マタ方カタあアらめ思シ慮リョさ粉コふ

一ヒトと破ハくク神シりリなナべ

又マタとん少シヤウくくククとら合カヘ

毛モウ分フンべ

又マタ方カタ小コ豆トウ粉コ 土ツチ器キ粉コ

右ミナホホ分フンもモこコとトけケてテ分フへ

又マタ方カタこコとトれレ茶チヤとトらラ分フへ

くクとトアアこコとト茶チヤとトらラ分フへ

芥カイ子シとトらラ分フへヘ油ユ

少シヤウてテひヒつツとトらラ分フへ

又マタ方カタ麻マ角カク 俗ソク云ユこコとトらラ分フへ

右ミナとトらラ分フへヘとトらラ分フへ

てテ分フへヘとトらラ分フへ

頭瘡 二吉 小麦 胡麻 烏梅

杏仁 各ホ分

右にツキもろく海老さかき

こらりけん

又方 檳榔子と粉

てこらりけんも粉

又方 松皮と海老さかき

やさかきと輕粉

くまへてこまはゆ

粉のけん

生姜等分らり合せぬ

ば

又方 五倍子 俗云まぐらぬ

右炒焦水とくまはゆ

又方 二急快節とくまはゆ

右粉介してまはゆ

けん

白朮瘡 二吉

桃木の皮とさんど

ちゆべ

又方 百草れとくまはゆ

粉法とくまはゆ

ぬるる

又方 楠白皮 牡丹皮 粉公好砂

よてとれぬるる

元々薬 丹礬 朱砂

硝砂

お粉りて 楠肺ととれ

ぬるる

又方 茅根 ちまね根 乃ら

右もろの粉りて じまろ他

してとれぬるる

小児五疳 此菜

檳榔子 紅花

射干 史君子

取草五分

右細く 冠して 年此 殺り

湯 かりり ぬるる

諸疳 此菜 能茶

沉香 巴豆

馬地

右粉りて 細く 殺り

殺りて 一月 又こ 口 皮 用 ぬるる

諸虫

乾漆

蕪夷仁

石粉シロコ一て力らるるなり
又方 蘇夷仁ソウイジン 霍亂クワラン 其即ヒキ

右等ミナ分給ワケして用ヨウす
一ヒト寸シユン白虫ハクチュウとトりて

又方 葛粉カクボ 干目カンメ 黄柏ワウハク 十ジュウ分

胡椒粉カワカキ 五ゴ分 耳草ミミクサ 二ニ分

右等ミナ分給ワケして用ヨウす

大虫オホムシ 此菜コノナ 大虫オホムシ 此菜コノナ 三年味サンネンミ 曾ソウ少ショウ 燧クハ 明メイ

燧クハ 明メイ 燧クハ 明メイ

燧クハ 明メイ 燧クハ 明メイ

又方 肉桂ニクキ 耳草ミミクサ 木分キブン

右等ミナ分給ワケして用ヨウす

又方 金名草キンナクサ 俗ソク云クニひヒこコ一ヒト寸シユン

取草トケクサ 三サン分

右等ミナ分給ワケして用ヨウす

けとちあべ

又方 取草トケクサ 一味イチミ 一ヒト分ブン

右等ミナ分給ワケして用ヨウす

麻病マビョウ 吉キチ

批杷耳皮ヒキ 一ヒト分 輕安ケイアン 二ニ分

石見皮シメン 一ヒト分

忍冬ニンジュウ 一ヒト分 耳草ミミクサ 五ゴ分

右一少ゆりて豆一 豆夜用
又方 瓜らん 車散子

茯苓五分 取草五分

右あつ湯より出貝一

又方 川蛇一丈 瓜らん五分

瓜らん一丈 瓜らん五分

葛粉五分

右此茶二杯ゆりてあつ湯

ゆりて入六分ゆりてあつ湯

右ちゆべ一

又方 木通七分 沢泻五分

排實五分 取草二分

右豆んド一丈ハ排實二十粒

と壳たふつささるる水八合

入七合ふ豆ん一 二番ゆりて

七合入六合ゆりて豆んド一丈

又方 瓜らん一丈 取草三分

陳皮五分 茯苓同

右豆んド一丈ゆりてあつ湯

ゆりて入六分ゆりてあつ湯

又方 枇杷實一丈 輕石三

大黃一丈

右粉ゆりて木通此豆んド

汁をそのつゆに作り

又方 攀れうとくわう

くわうはははげが

うて刻らるるくみ

トてえんトのち魚

又方 小便乃つまるる

車取子 冬葵子

滑石

右等分せんトのち魚

又方 莖れらるる

耳草 延胡索 苦楝

一ふくまてせんト魚

又方 同 西瓜とせんト魚

又方 同 黄柏とせんト魚

小便閉 小便れつらるる

昔れらるるをひき粉

みて取草とてん

せんト魚

又方 蒜 山梔子 木分

右とり合て勝とていよ入て

紙に少とていよ入て

又方 枯礬 一ふくまてせんト魚

木通 同 麦門冬 一兩
一兩 車脚 二五

右七味は... 用也

又方 家内丸... 用也

又方 家内丸... 用也

又方 家内丸... 用也

又方 家内丸... 用也

大便閉 大便秘結... 用也

又方 牽牛子... 用也

又方 牽牛子... 用也

又方 牽牛子... 用也

又方 牽牛子... 用也

又方 牽牛子... 用也

あて用也又晴まらうて

便數遺屎

中使をりくあふふ
使むるがごとく

香附子に粉おしてほ

くすりちぬ

又方

腎虚をきげふ

破故子

胡麻と入りか

茴香

ほろひ

右薬を粉おしてとゆくと

ちぬべ

又方

あまのぎやんをくすり

明礬

蚌壳

各等分

右粉おしてほくと用へ

便毒

俗をこころめ

桐木

を

枯礬乃を

右薬を粉おして白湯を

かりぬ

又方 大盆灰

百拜て取の土を

いため皮

を

枯礬を

右薬を粉おして薬を

中を湯にうけたて

てなまかりぬ

又方

合歡

を粉お

て湯を

うく碎りて用せし
しつひにさしつら

又方 ちんぎんを煎じて

粉にして用せし

疝氣ニ吉

黄柏 ちんぎんを煎じて

くろくろの皮を煎じ

右粉にして湯中に入れ

てと病人にさしつら

又方 葛蒲 葛根

来耳皮 五仁皮 来耳皮

くろくろの皮

まろり 木香 各一分

右つひにせんど用せし

又方 呉茱萸 俗云くそど

草烏頭

右薬を粉にして糊にて丸

三十粒つかりをべし

又方 荻葉 香附子

右薬を粉にして湯中に入れ

からちをる

下風 柞葉 柞葉

粉にしてからちをる

はふても用せり

又方 黄芩 木通 耳
右等分してせん一用へ

赤白朮

癩気

呉茱萸 三兩

心二枚 煎して使ひてり

心二枚 煎して使ひてり

心二枚 煎して使ひてり

右粉して茶一少く用ひて湯

一少く用ひて茶一少く用ひて湯

用ひて

又方 木綿實

皮とさり

香高麦粉 二文

棋椰子 一文

木香 一文

右刻一帳ニまづてり

せん一用へ

又方 胡桃其内実壳を子

よく粉して用ひて

せん一用へ

囊爛 二吉

せん一用へ

鬼を毛オオ

て七日も二七日も湯

せん一用へ

又方

煎して用ひて

破故紙粉して一用

之夜つ湯せく月一

又方 白茅蚕粉ハクモウサン粉コにて用也

陰痿

陰痿 陰多てあぐさるる

覆盆子フクセンシ 覆フク盆セン子シ

右ミドリ海ウミ小コいた一粉コにて一豆

ころもつてから也へ一

又方 鬼系子クワイケイシ 蛇床子スエトウシ

五味子

右ミドリ等ナ分ベ粉コにてりち也へ一

又方 天雄頭テンユウトウ 鬼系子クワイケイシ分ベ

右ミドリ粉コにて雀スズメ卵タマゴ小コつてさま

又方 旱コウ細コ一ヒトはハよヨちチ也也へ

陰精インセイ 陰イン精セイ 一ヒト子シ分ベ

ころもつてから也へ

脱肛ダツコウ 此コノ菜サイ 防風ボウフウ 雞頭花ケイトウカ

右ミドリ等ナ分ベ粉コにて糊コとト丸マト

りち也へ一

又方 雞頭花ケイトウカ 羌活キヤウカク

志シ也也ろロ此コノ灰ハイ

右ミドリ等ナ分ベ粉コにてりち也へ一

又方 慈石ジシ以ヨ燒ヤク研ケンしシて

粉コにて用又頭コ乃ノかカく

了リョウ子シ竹チク々々妙ミョウなり

又方 苦参 五倍子

古壁土 こへきど

右 苦参 分 中 一 升 下 之 穴 中

あふてそのあふて不賊と粉

あふてぬる

又方 香附子 荆芥

右 苦参 分 中 一 穴 中 之 穴 中

痔漏 ぢりゅう

黄蓮酒 わうれんしゅう

りちあへーらるる痔

不痔 ふぢ

又方 木賊 もくじやく 枳壳 しやく

大黃 乾姜 たいわう けんじやう

右 苦参 分 中 一 升 下 之 穴 中

一 日 小 之 夜 下 之 穴 中

又方 蒼耳 そうじ 其 根 之 根 中

粉 中 一 日 下 之 穴 中

又方 赤小豆 あつこま 破 之 煮 之 粉

中 一 日 下 之 穴 中

又方 木槿 もくぎん 根 之 根 中

中 一 日 下 之 穴 中

又方 柳 やなぎ 枝 之 根 中

中 一 日 下 之 穴 中

周穴痔 しゅうけつぢ

水根以棗（みづね）一（つ）こきせて
穴（あな）とせらばてす

下血（げりゅう）ニ吉

香附子（かうぶし）以香（か）浸（ひ）後（い）
その後（のち）破（やぶ）少（すく）煎（せん）粉（こな）
以（も）て更（さら）へ（）或（ある）は石菖（いりやう）
以（も）て之（これ）と（と）く（く）廣香（ひろかう）と（と）く（く）
之（これ）を（を）て（を）妙（めう）なり

又方 五倍子（ごばいし） 白芷（びやくし） 葶分（ていぶん）

右細（さい）を（を）丸（まる）一（ひと）湯（ゆ）に（に）干（かん）粒（りゅう）
づ（づ）り（り）ち（ち）ゆ（ゆ）へ（へ）

又方 鮓（た）以（も）味（あじ）嚼（か）ん（ん）者（しや）煎（せん）之（これ）べ

又方 串柿（くわし）れ（れ）こ（こ）ち（ち）ち（ち）ち（ち）ち（ち）

し（し）て（て）粉（こな）し（し）て（て）こ（こ）ち（ち）ち（ち）ち（ち）

丸（まる）一（ひと）湯（ゆ）に（に）用（もち）へ（へ）

又方 草薢（そうばく）以（も）て（を）丸（まる）一（ひと）湯（ゆ）に（に）用（もち）へ（へ）

右粉（み）を（を）以（も）て（を）丸（まる）一（ひと）湯（ゆ）に（に）用（もち）へ（へ）

又方 槐花（かいが） 枳壳（しやく） 枇杷葉（ひたひた）

右等（み）分（ぶん）粉（こな）し（し）て（て）食（じ）此（こ）湯（ゆ）に（に）用（もち）へ（へ）

遺精（いせい） ゆり（ゆ）り（り）こ（こ）ち（ち）ち（ち）ち（ち）

兜系子（たうけいし） 蓮肉（れんじゆ） 茯苓（ふくろう）

右等（み）分（ぶん）粉（こな）し（し）て（て）糊（か）を（を）丸（まる）一（ひと）湯（ゆ）に（に）用（もち）へ（へ）

又方 蓮肉（れんじゆ） 益智（いせき） 龍骨（りゆうこつ）

丸（まる）一（ひと）湯（ゆ）に（に）用（もち）へ（へ）
後（のち）に（に）煮（に）ふ（ふ）と（と）す（す）

右紫葳分粉分して用へ一粉と
くく一腎とつとくさる

又方 紫皮と細く切あまら
小指分々へ一妙なり

吐血 吉 茜根 俗云あつら

右豆一用る一

又方 茜根 耳聾 黑豆

右木分細く丸一用る一

又方 茜根 馬梅 艾葉

右ホ分細く丸ト用るト

又方 薺金此粉分ゆて用る

又方 小らとらけとら

便とや分分して用る一

脚氣 吉 忍冬 とうろ

粉分して用る一

又方 紫蘓 良香 陳皮

右葉分粉分して丸ト用る一

又方 是れをくく丸ト用る一

苗香此粉分して丸ト用る一

又方 五加皮 三三三根乃

右ここここ分して丸ト用る一

又ハゆふ浸りて丸ト用る一

又方 多けつとく一用る一

牽牛子 あさくま

粉^{こな}にして蜜^{みつ}を以^もて丸^{がん}ト^ト丸^{がん}ト^ト

又方 芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

陳^{ちん}皮^ひ 杏^{きやう}仁^{にん} 葶^{てい}藶^{りやく}

右粉^{みぎこな}にして丸^{がん}ト^ト

又方 芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

桃^{とう}仁^{にん} 芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

粉^{こな}にして芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

又方 芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

田^た螺^ら以^もて芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

粉^{こな}にして股^こを以^もて丸^{がん}ト^ト

腰痛^{ようゆう} 延^{えん}胡^こ索^{さく} 桂^{けい}心^{しん} 當^{たう}歸^き 朮^{じやく}

粉^{こな}にして芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

又方 破^は故^こ紙^し粉^{こな}にして芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

又方 草^{そう}薺^{しやく} 杜^と仲^{ちゆう}

右粉^{みぎこな}にして芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

癰^{おう} 疔^{てう} 百^{ひやく}草^{そう} 四^し分^{ぶん} 丹^{たん} 丹^{たん}

右粉^{みぎこな}にして芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

又方 藿^{くわく}香^{かう} 陳^{ちん}皮^ひ 馬^ま葉^{えつ}

草^{そう}蓂^{めい} 木^{もく}分^{ぶん} 丹^{たん} 丹^{たん}

又方 馬^ま鞭^{べん} 草^{そう} 芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

乃^な 芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

又方 牛^{ぎゅう}膝^{せつ} 芍^{しやく}薬^{やく}を以^もて丸^{がん}ト^ト

少くは口乃早天よりち魚へ
 又方 蒼耳子（カガク） 子（カガク） 子（カガク） 子（カガク） 子（カガク）
 粉（カガク） して湯（カガク） して用（カガク） 魚へ
 又方 雄黄 朱砂 阿魏
 右粉（カガク） して湯（カガク） 分（カガク） 細（カガク） して丸（カガク）
 毛（カガク） ち魚へ 魚（カガク） へ 魚（カガク） へ
 用（カガク） 毛（カガク） ち魚へ 魚（カガク） へ
 又方 桃仁 黄丹 赤分
 右細（カガク） して丸（カガク） 毛（カガク） ち魚へ
 灸（カガク） 肩 吉 芥葉（カガク） 子（カガク） 子（カガク）
 魚（カガク） へ 魚（カガク） へ 魚（カガク） へ

青鷺（カガク） 代頭（カガク） 二（カガク） 三（カガク） 四（カガク） 五（カガク） 六（カガク） 七（カガク） 八（カガク） 九（カガク） 十（カガク）
 右（カガク） 二（カガク） 三（カガク） 四（カガク） 五（カガク） 六（カガク） 七（カガク） 八（カガク） 九（カガク） 十（カガク）
 又方 魚（カガク） 毒（カガク） 消（カガク） 代（カガク） 菜（カガク）
 鬱金 舂麻（カガク） 赤分
 右粉（カガク） して湯（カガク） して用（カガク） 魚へ
 胡椒（カガク） 代粉（カガク） 代水（カガク） 子（カガク） 子（カガク） 子（カガク） 子（カガク）

又方 家内此藥より分るる袋に
蜘蛛より思ひ込めておぼろ
しく縛りおこし一物たり

毒鼠の食わくころころ

仙人草は若葉のみより中葉と

あうころころて食わくころころ分

四角より分るころころ一院者と

粉にして下はくおぼろより

又方 鼠尾草 三葉より分る

右葉とともころころてんこはけ

あてはくころころてんこはけ

あてはくころころてんこはけ

又方 白砂糖 菊葉 ホカ

右より合を紙とあてはく

たり

又方 小鮓とよりてはく

又方 姫百合とよりてはく

濃毒れ菜 ころころてはく

蓮葉とよりてはく

又方 栗れ菜とよりてはく

黄疽れ菜 ころころてはく

又方 檜葉 黄柏 弄

右よりてはく

いんげん豆を煮て水へ一脱ろく

荷葉紙を煮る

又方 山椒子大さき 黄柏四

耳草 五分

右をんじりゆへ

又方 小児豆を煮る

黄連 胡黄連

右に茶と馬乳を煮る

その中へ入して小麦粉は水にて

煮り馬乳と煮る

へ入燻して小麦と煮る粉ふ

かきゆへ

水腫 吉

鼠枯子粉を煮る

一りふこぶ

又方 虫つらわり

小麦粉と細めて丸

又方 呉茱萸 枳壳 各五

茯苓 一兩

右一わめて生薑へ入る

癩癩 俗云おつら

まろ

煮分ちて一わ八分づ湯し

ゆへ

又方 来れ葉 二十日分がけり 附 六日のちとるな

まじらざと 三ぬ 人乃さき 附 うらな

右粉 して 糊 とぬ し か ま れ

粉 と し ら し て 塩湯 と く

十粒 づ 一 日 と 三 日 づ く 用 也 一

又方 鴨 一 羽 を ろ ろ に し て

糝 砂 と し ら し て 用 也 一

十日 づ く 用 也 一

又方 鴨 一 羽 を ろ ろ に し て

胡桃 と し ら し て 用 也 一

右 葉 分 け し て 粉 を 湯 と く

又方 薺 金 明礬 亦 分

右 丸 一 十 粒 づ 七 日 づ く

疫病 世 上 疫 病 を ろ ろ に し て

蒼木 と し ら し て 用 也 一

又方 蒼耳 子 を ろ ろ に し て

し ら し て 用 也 一

又方 松葉 法 と ま う ん と ま う ん

一 日 づ く 湯 と く

右 此 方 と も 亦 疫 病 を ろ ろ に し て

胸 虫 れ 菜

苦棟 根 皮 苦辛 芥 菜

右薬分をんどしちへ
又方 姜れりしち粉
しておんらちて粉り大豆
子るどし丸しゆらち湯
てしちへ

長血れ菜 香附子

白芍薬 地黄

右薬分ちて粉ちて
一ちちて水天目ちへ入
七分おんどし

又方 黄柏 一両八分
一両八分

一両八分

右粉ちて湯ちて月へ
又方 茯苓ちて水
黄柏と水は湯ちて
乃ちちのちちち

喘息れ菜 陳皮 五分

紫蘇子 五分 杏仁 同

右をんどしちへ

亦方 老人れちち

萊服子 蜜ちて丸

亦方 杏仁と膏便ちて後

右月毎の膏便ちて後

薄荷と右に杏仁と
等分して粉にして蜜丸に

痢病

俗云のり

巴豆 二粒を臼に砕き水に入れて

又生じて等分して丸に

とくし丸に

又方 廉角 二粒を臼に砕き水に入れて

右粉にしてけし丸に

けし丸に

又方 芍薬 黄柏 陳皮

甘草

右等分して丸に

又方 葛粉 二升 黄柏 六升

胡椒 二升 甘草 一升

右粉にして丸に

又方 巴豆皮 柚の葉 等分

右等分して丸に

丸に

又方 熱のつる丸に

柴胡 乾姜 等分

右等分して丸に

丸に

又方 蕎麦粉 雞れたり

みてたじのちあへり

又方 いさし新しものちいでり

肉桂と生姜汁とをた

乾し薬をたじのちあ

ゆを黄蓮と苦参と粉

あてりちあへり

五臟 一とあへり

陳皮 枳實 等分

生姜は入てえんじのちあへり

又方 阿魏 五靈脂

右粉あてたじのちあへり

又方 枯礬 硫黄 等分

右よく炒朱砂とらえり

又方 まじり肝とりて丸

湯あてて粒あへり

又方 胡桃乃ちらあへり

あてりちあへり

又方 麻北腸ととのちあ

や記あてて茶一ちあへり

湯あてりちあへり

既逆ニ

香附子 藿香 等分

右せんじのちあへり

又方 硫黄 水銀 等分

右より合せて生薑れを煎じ
けしそく飯とのへて丸一用

又方 陳皮 干姜 二味
右をんとらちのへ

積聚 つくはる
香附子 破を煎じ

右粉にして糊を丸一用
又方 檳榔子 大黃

右等分粉し丸一用
又方 香附子 木香 等分

右粉して生薑れを煎じ
丸のへそ丸ト生薑れを煎じ

丸のへそ丸ト生薑れを煎じ

中暑 かんらん丸
黄連を湯中く煎じ

又方 雄黄と蜜を丸
りちのへ

又方 桂心 茯苓
右等分粉し丸一用

又方 桂心 茯苓
右等分粉し丸一用

又方 桂心 茯苓
右等分粉し丸一用

寶丞乙酉龍集

正月下浣

讚陽高松西新通町

尾上平九衛門

大坂本町壹丁目松壽堂板開

萬屋彦太郎



Kitasato Memorial Medical Library